

金融機関との連携を強化し、中小企業の経営を支援

TKC九州会 山之内浩明 会長

東証一部上場で会計事務所や税理士事務所などに情報サービスを提供する㈱TKC（栃木県宇都宮市）。その会員で構成する地域会「TKC九州会」（福岡市中央区西中洲）の会長に、7月1日付で山之内浩明副会長（税理士法人れいめい代表社員）が就任した。2021年の全国会創設50周年に向け、税理士の4大業務（税務、会計、保証、経営助言）や新運動方針の実践を図る山之内会長に抱負を聞いた。

（取材／広田晃平）

―就任の感想をお願いします。
山之内 昨年の総会で前会長から指名を受けていましたので心の準備はしていましたが、まだ就任して間もないですが、これから徐々に変容になってくるだろうと身が引き締まる思いです。

―九州会ではどのような取り組みをされていますか。
山之内 TKC全国会と同様に、中小企業の適正申告と経営改善の実現を支援するため、①顧問の月次決算を迅速・適正に支援するための月次巡回監査の実践

②中小企業の経営改善と経営承継の支援③税務申告時における税理士法第33条の2に基づく書面添付④国税と地方税の電子申告の実践、これらに積極的に取り組んでいきます。



やまのうち ひろあき
山之内 浩明 会長

鹿児島市出身。1961年12月6日生まれ。57歳。鹿児島県立甲南高校-日本大学商学部卒。税理士の父の影響でこの業界へ。90年12月税理士登録。93年12月TKC入会。2017年7月から同会副会長。05年7月から税理士法人れいめい（鹿児島市）の代表も務める。趣味はゴルフ、読書

―会員数について。
山之内 全国で約1万1400人、うち九州会は1016人が在籍しています。

この数字は九州の登録税理士の約10%ですので、増加の余地があります。この

1年で38人増えました。

―入会される主な理由は。
山之内 情報の発信力が一番

でしようね。最近は税務が煩雑になってきているので、税制改正への対応が早いことも評価されているのだと思います。また、九州会は

研修に注力し、会員には年間54時間受けることを奨励して

います。さまざまな内容の研修を実施し、開催頻度は他の地域会より多いと思いますし、研修の充実を理由に入会される方もいます。

―最近の中小企業の経営動向を教えてください。
山之内 国税庁が今年10月に発表した「法人税等の申告実績の概要」によると、平成30事務年度における全法人の黒字申告割合は34.7%で、前年度に比べ0.5ポイント増と8年連続で

「書面添付」で決算書の信頼性を高める

―2021年の全国会創設50周年に向けた3大運動方針の

一つに掲げられている「TKC方式の書面添付の推進」について

リットを教えてください。

山之内 我々は「巡回監査」を実践することで信頼性の高い決算書の作成に努めています。その決算書の信頼性は①中小会計要領チェックリスト②税理士法第33条の2に基づく添付書面③記帳適時性証明書の3つによって検証することができます。

特に、書面添付制度は、税理士または税理士法人が税理士法第33条の2に基づき、税務申告書の作成に関して計算や整理、相談に応じた事項を記載した書面を申告書に添付して提出すること

とができる制度です。間接的手段ではありますが、中小企業の決算書の信頼性を確認する唯一の法的根拠をもった制度であると考えられます。金融機関から「決算書の信頼性向上に寄与している」との評価につながっています。

10月も書面添付のシンポジウムを開催しました。当日は福岡国税局、福岡財務支局、福岡県信用保証協会、日本政策金融公庫、福岡銀行、飯塚信用金庫などから18人、TKC九州会の税理士33人に参加いただき、金融機関と

TKC会員とのさらなる連携を望む声も聞かれました。

―3大運動方針には「TKCモニタリング情報サービス」の推進も掲げられています。

山之内 これはTKC全国会会員の税理士・公認会計士が毎月の巡回監査と月次決算を実施したうえで作成した月次試算表、年度決算書などの財務情報に関する先企業の経営者からの依頼に基づいて電子申告と同時に金融機関に開示する無償のクラウドサービスです。

関与先企業の事務負担が軽減されるほか、信頼性の高い決算書のタイムリーな提供により、金融機関からの関与先企業に対する信頼性が向上し、関係強化につながると考えます。全国の金融機関の9割を超える420金融機関で導入され、その中に27の保証協会も含まれます。福岡では10金融機関で導入されています。

最近では当サービスの利用企業向けに「金利優遇」「短期継続融資の提供」「経営者保証の免除」など、独自の商品を開発する金融機関も増えてきました。

―福岡、鹿児島間の移動には慣れましたか。

山之内 普段は鹿児島市内で税理士法人を運営しておりますが、やはり福岡に足を運ぶ回数が増えました。自宅も鹿児島市内にあり、九州会の会合が午前10時から始まる日は7時半に家を出て、新幹線を利用して9時過ぎに博多に着いています。

―会務以外で福岡にいますか。

山之内 実はお酒をあまり飲まないのに夜に福岡でゆっくりすることもほぼなく今日も夕方4時には帰ります（笑い）。

黒字申告割合が増えているものの、依然として国内法人の7割が赤字の状況です。

―会計事務所へのニーズは昔とは変わってきていますか。

山之内 戦後30年は国内の中小企業の約7割が黒字申告でした。1950年から70年代半ばまでは節税対策が多く、青色申告制度に基づき会計帳簿の「記帳代行」をすることが役立ちました。しかし、90年代に赤字申告割合が7割になると「黒字決算の実現支援」や「適正な税務申告」と変わっていききました。

一方、近年では低価格なクラウド会計ソフトの普及に伴い、中小企業は自ら会計記帳ができる環境にあるので、会計事務所は記帳代行をするだけでは「中小企業の支援」の観点からは期待に応えられなくなっています。それも踏まえ、我々は中小企業が会計事務所に求めるニーズについて真剣に考えなければなりません。

―ご趣味は。

山之内 読書とゴルフです。読書は時間があれば書店に立ち寄って面白そうなものを何冊か購入し、移動中の新幹線で読みます。ジャンルは問いません。

―改めて抱負をお願いします。

山之内 「会計で会社を強くする」の合言葉のもと、巡回監査を実践し、正しい会計帳簿を利用することで税務、会計、保証、経営助言の4つの分野から中小企業の存続、発展を支援していきます。今後も企業経営者のビジネスドクターとして日々研さんに励みます。

DATA [所在地] 〒810-0002 福岡市中央区西中洲12-33 大同生命福岡ビル8F [設立] 1973年 [活動内容] 自計化の推進、月次巡回監査と月次決算の実施、書面添付の実践、経営改善計画策定支援、会員間での例会及び研修会、金融機関との交流会、提携企業との勉強会 [会員数] 1016人 (2019年11月1日時点) [支部] 福岡、福岡中央、北九州、佐賀、長崎